

第 1 回 滋賀の道路を考える懇談会

議 事 概 要

日時：平成 23 年 6 月 27 日（月） 14：00～16：05

場所：大津合同庁舎 7 A 会議室

1. 開会

2. 主催者挨拶（土木交通部長）

3. 委員紹介

4. 懇談会

（1）座長挨拶

（2）懇談会の位置づけと進め方について

- ・事務局より懇談会の位置づけと今後の進め方について説明を行った。

（3）情報提供「滋賀県の現状と課題」

- ・事務局より滋賀県の道路の現状と課題について説明を行った。

（4）各委員からの意見

○各委員からの主な意見等については以下のとおりである。

【道路整備等について】

- ・CO₂ 削減や安全性の面から街路樹、植栽が必要であると思う。しかし、市民からは鳥が集まるため街路樹を伐採して欲しいとの声がある。
- ・滋賀県の場合、北部・西部と南部は地域の状況が違う。北部・西部は少子高齢化や災害時の対応などが課題である。
- ・滋賀県の経済活性化のためには社会資本整備は必要かと思う。
- ・国道 161 号は抜け道がない区間があり、通行止めになった場合に迂回路が無い。もう 1 本代替路線を整備して欲しいが、費用がかかるためあまり無理も言えない。
- ・市町道に通過交通が流入するため、通学時に重大事故が発生している。幹線道路の整備が遅れていることが原因であると考えられるため、細い街路への通過交通の流入について議論してもらいたい。

- ・石樽峠道路が供用したことはとても経済効果があり、このような状況を見極めた上で道路整備を行ってほしい。
- ・大雪で京都から滋賀までの区間の京滋バイパスはストップする。逢坂山で雪が積もり、大型車が転倒すると完全に通行できなくなるため、国、県あげて検討いただきたい。
- ・道路財源が逼迫している。限られた財源の中でどういった投資、管理をしていけばよいのか考えていかなければならない。
- ・工業地帯などで従業員が入ってくる時間帯や駅に集中する時間帯などにおいてリバーシブルレーンで対応するなど合理的に考えればよいと思う。

【有料道路について】

- ・湖西道路が無料になったように、滋賀県のブランド力を高めるため、県外ナンバーの車に対して近江大橋、琵琶湖大橋の無料化を進めることができないかと考えている。現在あるストックを活用し、活性化ができないか。
- ・琵琶湖大橋、近江大橋は生活道路として私たちも利用しており、また、活性化のためにも無料化をしてほしい。
- ・障がい者が近江大橋、琵琶湖大橋の料金所で料金を払うのは大変である。ETCの支払いは障がい者にとって楽であるため導入を検討して欲しいと考える。それが1つのバリアフリーとなる。

【歩道や自転車道について】

- ・バリアフリーは私たちにとって重要である。道路と歩道を色分けするだけでは車が駐停車するため、もう少し安全に車椅子、ベビーカーが利用できる歩道の整備をお願いしたい。
- ・自転車のまちづくりについての活動を行っているが、実際に自転車で走行すると、走りやすい道ではない。自転車は軽車両であり、一般的には車道を走ることになるが非常に危ない。
- ・車道を走る場合には、カラーで自転車専用レーンをつくってもらえるとありがたい。車も自転車も共存して走れるようにできないか。
- ・自転車による重傷事故が増加している。
- ・トラック輸送は企業物流から宅配まで行っている。安全には気をつけているが、事故が発生すると大きなダメージをうけるため交差点の改良、歩車分離などの促進をできるだけ図ってほしい。
- ・歩道は安全に改修されていないことも多い。

【災害時の道路について】

- ・東日本の災害をみて、道路は命を運ぶ役割があることを痛切に感じた。
- ・災害時に迂回路が無い場合には緊急車両が通行できないことが問題である。

【マスタープランや客観的評価マニュアルの改定について】

- ・客観的評価マニュアルの改訂に当たっては、人口密度を追加してみてはどうかと考えている。
- ・広域災害の視点、維持管理の視点、南部地区の経済の視点などは重要だが、優先順位の付け方は非常に難しいと思うので議論が必要である。
- ・幹線道路でない路線については、各対象地域のローカルルールを決めても良いと思う。